

もの言う牧師のエッセー 第39話 ロンドン・オリンピック小話 ② 「頼りない審判員」

開会式において、インド選手団約50人にまじって選手団とは無関係の若い女性1人が一緒に行進していたり、はたまた日本選手団が、誘導の不手際から五輪スタジアムの選手エリアに入れず、終盤のクライマックスとなる聖火台への点火に立ち会えなかったりと、妙なことの多いロンドン五輪ではあるが、大会三日目の男子柔道66kg級 準々決勝、日本の海老沼匡選手と韓国のチョ・ジュンホ選手との試合においてさらなる珍事が発生した。

なんと判定が覆ってしまったのである。延長戦でも決着がつかず、もつれ込んだ旗判定だったが、畳上の審判員3人が高々と挙げたのは、すべてチョの優勢を示す「青」だった。「なぜ？」と困惑する海老沼、会場からは大ブーイング、篠原信一監督もスタンドから大声で判定の再考を求めた。

すると、北京五輪後に導入されたビデオ判定を専門とする“Jury”（審査員）が登場、審判員との協議の結果、海老沼の勝ちが決まり、白い3本の旗が上がったのだ。生中継していたテレビ番組の解説者は「見たことがない」とあ然。激昂する韓国応援団と呆然とするチョ選手。何とも後味の悪い結果となった。

このブサイクな審判を見て、逆に神であるイエスの完璧な審判を思い出す。

「ああ神の知恵と知識との富は深いかな、その審判は測り難く、その道は尋ね難し。」

ローマ人への手紙 11章 33節：文語訳

が、それだ。実は聖書には、全ての人類が行った一切のことが神によって正確に記録されている上に、最終的に一人ひとりが神によって審判を受けることになっていることが記されている。全宇宙と共に全時間をも支配する神にとって“誤審”などありえない。もし“負け”が決まればその人は。。。 今、“審判者”キリストを受け入れよう。

2012-8-10

